

Takashi Homma New Documentary

ホンマタカシ
ニュー・ドク
ュメンタリー



2011年1月8日(土) - 3月21日(月・祝)

展覧会名	ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー		
会期	2011年1月8日(土) → 3月21日(月・祝)		
	開場時間 / 10時~18時(金・土曜日は20時まで) チケットの販売は開場30分前まで		
	休場日 / 毎週月曜日(1月10日、3月21日は開場)、1月11日(火)		
会場	金沢21世紀美術館 展示室7~9、14、エントランス	出品点数	160点
料金	一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円 ※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金 ※同展チケットにて「コレクション展」も観覧可 ※「桑山忠明展/Untitled: Tadaaki Kuwayama」との共通観覧券になります。		
	前売りチケット: チケットぴあ (tel.0570-02-9999 Pコード:764-412) ローソンチケット (tel.0570-000-777 Lコード:58030)		
主催	金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]、朝日新聞社		
協賛	株式会社 大伸社、妹島和世+西沢立衛/SANAA	協力	エプソン販売株式会社、ギャラリー360°
お問い合わせ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 展覧会担当/黒澤 広報担当/落合・沢井
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2806
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー

時代の乾いた雰囲気や、被写体との独自の距離感で知られるホンマタカシの写真。建築、波、東京の子ども、郊外風景など、さまざまなテーマを手がけ、その多くが長い時間をかけてシリーズ化されています。物語や感情を表現することを嫌い、被写体をただ映しとるというドライな視点は、表現か記録かを問われた時代から進んで、そのどちらに寄ることもない「ニュー・ドキュメンタリー」の名にふさわしいものといえます。ホンマは写真家としての活動をはじめた当初から、「ドキュメンタリーとしての視点」を持ちつつ、写真そのものに「アートとしてのアプローチ」をすることで、写真表現の持つ可能性に挑んできました。特に最近では、現実の世界や時代と向き合う一方で、より主観的な表現を追求したホンマの創作活動の幅は大きく広がってきています。

本展では、従来のプリントのみならず、写真を元にしたシルクスクリーン、双眼鏡でのぞき込んで鑑賞するインスタレーション作品、イメージを集積した本、絵画など、さまざまな手法やメディアを用いた最新作を紹介しながら、写真が映し出す現実を通して「見ること」の意味を考え、写真とはいったい何か、に迫ります。雪山での鹿狩りの痕跡を追った《Trails》や、それに主題を得た絵画作品、ライフワークとして東京の風景とひとりの少女を撮影しつづけている《Tokyo and My Daughter》や《Widows》は、主人公となる人間の家族アルバムから見つけた写真を再撮影し、写真に映る人々が向けた家族や親しい者たちへの視線に時を超えて介入していきます。新作《re-construction》はホンマが雑誌の表紙や編集を手がけたページの中面を再撮影し、本の体裁で作られた作品集で、展覧会のチラシやポスター、その校正刷りも含まれ、ホンマがさまざまな媒体を軽やかに横断する軌跡がよく現れています。

展覧会の特徴

「写真家 ホンマタカシの仕事」

美術館での本格的な個展を望む声が多く寄せられながら、いまだ実現していない待望の展覧会として、本展では初期の雑誌広告の仕事から、近年の《Tokyo and My Daughter》などの代表的なシリーズ、新作のインスタレーション、絵画、シルクスクリーンなど、ホンマの仕事を網羅する幅広い展示内容です。時代の空気感が感じられ、同時代に生きる若い世代を中心に人気を集める写真家の、最新のコンセプトにもとづいた7シリーズ、約160点をご紹介します。

「写真とは何か」

CGや合成など、映し出されるイメージの確からしさを疑う現代にあっても、なお人々は写真や映像は事実を認識する最大の手段であると考えています。ホンマタカシは「写真とは何か」を問ひかけ、他の見方を可能にする写真の多義性について思索しています。目の前の写真に写っているものは、あくまでも見方のひとつに過ぎないと自覚し、写真から発展したシルクスクリーン、絵画、インスタレーションなどを通して、写真とは何か、という疑問を投げかけています。

「リアリティとは何か」

ホンマは1999年に写真の創作・発表活動において優れた成果をあげた写真家に贈られる木村伊兵衛写真賞を受賞。写真界に確固たる地位を得たのちも写真表現の可能性を追求し続けています。受賞作の『TOKYO SUBURBIA 東京郊外』(1998年発表)は、東京の風景とそこに暮らす若者たちの日常を淡々と撮った写真集ですが、「東京」の撮影はホンマのライフワークとして、今もこのシリーズは続いています。本展では、新しいコンセプトのもと、同じイメージも組み合わせや展示方法によって異なる文脈を持ちうることを示唆しながら、写真表現のリアリティとは何かについても考える機会とします。

「妹島和世+西沢立衛/SANAAとのコラボレーション」

ホンマタカシは金沢21世紀美術館の建設工程を撮影した写真家です。建築を主題としたシリーズは、単なる記録(ドキュメンタリー)にとどまらず、建物を取り巻く環境や関わる人々の魅力を存分に引き出した、ホンマタカシによる作品でもあります。その縁もあって、今回の展覧会では、特別に妹島和世+西沢立衛/SANAAがホンマの最新作《re-construction》のために新しい空間をデザイン。建築家と写真家によるコラボレーションは必見です。

作家プロフィール

ホンマタカシ Takashi Homma

1962年東京生まれ。写真家。1999年、写真集『東京郊外 TOKYO SUBURBIA』(光琳社出版)で第24回木村伊兵衛写真賞受賞。2008年、ニューヨークのApertureから写真集『TOKYO』を刊行。1993年から2007年までの間に東京をテーマに撮影した作品が収録され、それまでの集大成的な内容になっている。2009年、単行本『たのしい写真 よい子のための写真教室』(平凡社)を刊行。このほか主な写真集に『Babyland』(リトル・モア/1995年)、『Hyper Ballad: Icelandic Suburban Landscapes』(スイッチパブリッシング/1997年)、『東京の子供』(リトル・モア/2001年)、『Tokyo and my Daughter』(Nieves/2006年)、『NEW WAVES』(PARCO出版/2007年)、『trails』(マッチアンドカンパニー/2009年)、『widows』(Fantombbooks/2010年)、『M』(ギャラリー360°/2010年)などがある。

2010年より東京造形大学大学院客員教授。

<http://betweenthebooks.com>



© Takashi Homma

関連企画

オープニング・トーク

ホンマタカシ × 榎木野衣 (美術評論家)

【日時】2011年1月8日(土) 11:00~13:00 (開場10:30)

【会場】金沢21世紀美術館 レクチャーホール

【料金】無料(ただし、当日の本展観覧券が必要)

【定員】先着80名

ホンマタカシ「たのしい写真教室」

※日時内容等、詳細は1月8日(土)に発表します。

出品作品・
シリーズについて

広報用に本頁に掲載している作品画像の提供が可能です。

<使用条件> ご希望の方は下記をお読みの上、広報室までお問い合わせください。

※広報用画像の掲載にはいずれも下記クレジットの明記が必要です。各画像のキャプションとともに必ずご表示ください。

© Takashi Homma

※トリミングはご遠慮ください。キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で広報室までご連絡ください。

※掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

展示室 7

Trails



1 《Trails》より 2010

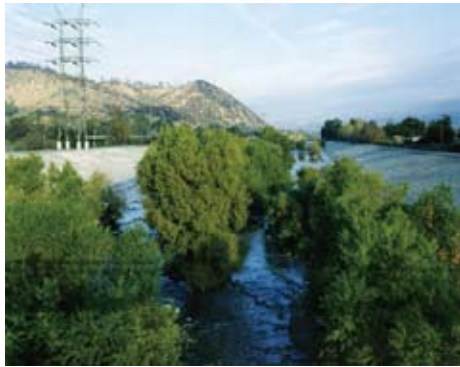


2 《Trails》より 2010

白い雪の上に残る赤い印。血にも見えるその痕は、狩猟の後に残された生き物の生きていた証ととらえられるだろうか。他に何も語られるものもなく、推察を重ねながら、写真に映る現実のあいまいさに翻弄される作品である。2009年に発表されたシリーズを再制作したプリントと同名の絵画作品も発表。

展示室 8

Together



3 《Together》より 2007



4 《Together》より 2006

2006年、映像作家のマイク・ミルズとともに、ロサンゼルス周辺の野生動物の生態を調査するプロジェクト「Wildlife Corridors in Los Angeles(ロサンゼルス野生動物回廊)」を開始。2006年にはホンマの写真とミルズの文章を合わせ《Together》と題して雑誌「Coyote」No.11(スイッチ・パブリッシング、2006年4月発売、pp.81-96)に掲載された。本展には、続く2006年から2008年にかけて撮影された作品が、シリーズ《Together》として発表される。

展示室 8

M



5 《M / New York》2002 / 2010



6 《M / Washington D.C.》2009 / 2010

ホンマが撮り続けているファーストフード店の写真をシルクスクリンで制作した2010年の新作シリーズ。世界のマクドナルドが共通のロゴの元に店舗数を拡大しているが、その増殖の様子がシルクスクリンという手法と重なる。

展示室 9

Seeing Itself



7 《Monte Rose》2006

2008年に発表された《Mountains: Seeing Itself》を本展のために再制作する。双眼鏡で暗室の中を覗くと、12点のライトボックスが見える。それぞれにピントを合わせると、マッターホルン、アイガー、ユングフラウ、モンテローザなどの山の写真が見えるという仕掛けの作品。

展示室 7,8 前・外

re-construction



8 《re-construction》2011



9 《re-construction》2011

写真の発表場所をギャラリーや美術館に限定せず、雑誌や広告にも積極的に求めてきた作家が、自身の手で再撮影、再編集して本の体裁にまとめた作品。これら大量に流通する媒体における表現が、芸術の領域における確立された写真と対極を為すものであっても、どちらもホンマタカシという写真家の仕事(work)のボディを成すものとしてとらえ、その活動を再検証する。

展示室 14

Widows



10 《Widows》より 2009



11 《Widows》より 2009

2009年夏、ホンマはジェノヴァの東約30キロに位置する、人口3万人ほどのラパッロの町を訪れ、ラパッロおよびジェノヴァに住む11人の未亡人たちをファインダーに収めた。彼女たちのポートレイトのほか、その住まいのなかや周辺なども撮影し、さらに、彼女たちがしまい込んでいた古いスナップ写真を複写し、それらを混在させて、1つのシリーズとして写真集にまとめ上げたものである。

展示室 14

Tokyo and My Daughter



12 《Tokyo and My Daughter》より 2010



13 《Tokyo and My Daughter》より 2006

ひとりの女の子の肖像写真と東京の風景が、ほぼ交互に織り込まれているシリーズ。赤ん坊のときから幼稚園、小学校と、成長のたびに撮られた女の子の写真は、さながら家族アルバムからの抜粋のようにみえる。それはタイトルにある「My Daughter」からも、ホンマ自身が娘の成長を追った記録なのではないかということのだが、事実とはそれと異なる。写真の中に見るイメージと文脈について考え直し、いったい写真とは何かについて考えさせられる。